

# 平成25年度 特別養護老人ホーム虹ヶ丘 事業報告書

## 1 総括

新施設準備の関係で職員増であった昨年度より今年度は職員減となり、職員体制の変動が大きかった。そんな中でも入居者へのケアの質が落ちる事のないよう努力してきた。『一人一人のニーズを引き出し、思いに添えるケア』を目指してきたが、研修等への参加が厳しい状況ではあった。認知症の症状による入居者間のトラブルへの対応で職員も困惑することも多く、ニーズの多様化で職員の力量を試される場面が多くなっている。一方、『働きやすい職場作り』への意識が動いてきており、ケアの質の向上につながるよう、次年度も検討を重ねていきたい。

## 2 入退所状況

今年度は15名の退居があった。(昨年度12名)退居された方の中で5名の方が病院で、10名の方が施設で亡くなられた。職員一人ひとりがユニット内で何ができるか話し合い、各専門職間の連携により、2名の方の看取りをさせていただいた。その方達以外の方々も正式なターミナルケアではなかったが、体調不良、機能低下により状態に合わせてその都度相談し、連携を取りながら支援させていただいた。今年度は入れ変わりが多く、5月、12月を除き毎月退居があり、同じ夜間帯に2名亡くなられたこともあった。月末の在籍者が定員50名に満たない月が多く、満床状態は5月・12月・1月のみであった。退居されても、様々な事情によりすぐに入居に至らないケースも多く、空床状態が長期間続くことがあった。

### 《月別入退所状況》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	1	1	1	2	1	1	3	1	1	0	2	15
退所者数	1	0	2	1	2	1	2	2	0	1	2	1	15
退所理由	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡
月末在籍者数	49	50	49	49	49	49	48	49	50	50	48	49	49
男性	6	6	5	6	6	7	7	7	8	8	7	7	7
女性	43	44	44	43	43	42	41	42	42	42	41	42	42

## 3 入所者状況

今年度の平均介護度は3.98(昨年度4.06、一昨年度4.24)。要介護度の分布をみるとIVとVで全体の67.3%(昨年度73.5%、一昨年度81.6%)で、年々介護度が下がってきている。面会件数は964件と昨年度の1376件と減少しているが、ほぼ毎日面会に来られる家族もあり、入居者の状態を随時お伝えしている。また、面会が少ない家族にも随時近況報告をしており、家族からの要望を聞かせていただいている。入居期間割合では入退居の入れ替わりが早く、1年未満が全体の30.6%である。介護保険制度開始(平成12年4月)以前からの入居者は3名である。

### (1) 介護度別在籍者数

介護度別	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	0	0	0.0%
要支援2	0	0	0	0.0%
要介護I	0	1	1	2.0%
要介護II	1	2	3	6.1%
要介護III	2	10	12	24.5%
要介護IV	1	12	13	26.5%
要介護V	3	17	20	40.8%
合計	7	42	49	100.0%
平均要介護度	3.86	4.00	3.98	

### (2) 面会状況

月別	延件数	1日平均
4月	70	2.3
5月	75	2.4
6月	56	1.9
7月	65	2.1
8月	48	1.5
9月	90	3.0
10月	89	2.9
11月	70	2.3
12月	80	2.6
1月	109	3.5
2月	89	3.1
3月	123	4.0
合計	964	2.6

### (3) 年齢別状況

年齢	男性	女性	合計
-59	0	0	0
60-64	0	0	0
65-69	0	1	1
70-74	0	2	2
75-79	0	3	3
80-84	3	10	13
85-89	3	8	11
90-94	1	9	10
95-99	0	5	5
100-	0	4	4
合計	7	42	49
平均年齢	84.7	87.7	87.3
最高年齢	90	102	

最低年齢	82	65	
------	----	----	--

#### (4) 出身地別

市町別	男性	女性	合計
与謝野町	6	40	46
伊根町	0	1	1
宮津市	1	1	2
その他	0	0	0
合計	7	42	49

#### (5) 入所期間割合

入所期間	人数	割合
10年以上	5	10.2%
5年以上～10年未満	13	26.5%
3年以上～5年未満	5	10.2%
1年以上～3年未満	11	22.4%
1年未満	15	30.6%
合計	49	100.0%

### 4 入所者の健康状況

入院者は昨年度に比べ4名減の16名であった。平均入院延日数は昨年度の513日から349日と減少、平均在院数も昨年度25.6日であったが、今年度は21.8日と短くなっている。入院時の病名は、『誤嚥性肺炎』が最も多く、続いて『尿路感染』、他は『蜂窩織炎』『大腿頸部骨折』『ヘルニア』『脱水』などばらつきがある。通院については、実人数昨年度の38名から43名と通院が必要な方が増え、また定期的に受診が必要な方も増え、通院延日数は昨年度113日から今年度125日と増加傾向にある。今年度虹ヶ丘で最期を迎えられた方が10名と今までになく多い年であった。感染症において、ノロウイルスの発生は無かったが、5月に3名の胃腸風邪の発症があり、保健所に指導を受けることがあった。インフルエンザは年度末に1名発症があった。いずれも重篤には至っていない。

#### (1) 利用者の診察状況

診察別	施設内診療所における診療	他の医療機関における診療			
		入院		通院	
	実人員	実人員	延日数	実人員	延日数
内科系疾患	64	12	296	14	31
外科系疾患		1	22	4	4
精神科系疾患				7	42
婦人科系疾患				1	1
眼科系疾患		1	8	5	14
耳鼻科系疾患				2	2
皮膚科系疾患	6			4	11
泌尿器科系疾患				1	1
整形外科系疾患		2	23	5	19
歯科系疾患	13				
合計	83	16	349	43	125

#### (3) 嘱託医来診状況

診療所別	来診実日数	1ヶ月当りの平均日数
伊藤内科医院	26	2.16
由良診療所	26	2.16

#### (2) 健康管理状況

内容	実施日(月)	利用者(特養)	利用者(ケア)	職員
血液検査	6月	47	13	108
	12月			108
尿検査	6月		13	104
	12月			99
心電図検査	6月	47	13	90
	12月			81
胸部レントゲン検査	6月	47	13	107
	12月			12
インフルエンザ予防接種	11月	44	13	64
	12月	3	1	52

#### (4) 疾患別状況

項目	人数	項目	人数
脳血管障害	24	痔核症	1
認知症	42	便秘症	44
心疾患	19	気管支喘息	4
高血圧症	19	白内障	9
貧血	5	胃がん	0
糖尿病	8	胃潰瘍	2
骨粗しょう症	5	腎機能障害	0
逆流性食道炎	4	精神疾患	11
腸閉塞	2	後縦靭帯骨化症	0
褥瘡	3	皮膚疾患	6

肝炎	2	膝関節症	11
脳腫瘍	2	パーキンソン	9

(5) 年齢構成別荷重平均栄養価 (年間所要量・摂取量)

栄養項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 摂取 量	所要量	単位
エネルギー	1418	1440	1431	1437	1435	1464	1436	1455	1443	1450	1447	1445	1442	1537	k cal
たんぱく質	54	55	55	54	55	56	54	55	54	55	55	55	55	52	g
脂質	31	33	33	34	32	37	33	34	34	33	34	34	34	37	g
カルシウム	437	443	444	422	431	453	440	456	440	437	437	450	441	622	mg
鉄	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	7	8	8	6	mg
レチノール当量	537	538	496	540	472	532	540	541	578	708	543	530	546	679	μgRE
ビタミンB1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	mg
ビタミンB2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	mg
ビタミンC	77	72	72	73	77	77	75	75	75	76	80	82	76	100	mg
食塩	8	8	9	8	8	9	8	8	8	8	8	8	8	8	g
穀類エネルギー比	50	50	50	50	50	49	51	50	50	50	50	50	50	49	%
動物性たんぱく質比	45	46	46	46	48	47	46	45	47	46	47	47	46	47	%
脂質エネルギー比	20	21	20	21	20	21	20	21	21	21	21	21	21	21	%

※ 食事摂取基準に基づき施設にあわせた所要量を算出

## 5 サービス状況

今年度は入居者の状況が要介護度が低い傾向である一方、認知症の周辺症状で不穏、混乱を起こし、他入居者とトラブルとなる場合が多く、職員は関係性への配慮等対応について検討を重ねるなど、サービスを提供する上で、更に認知症への理解を深める必要性を感じるが多かった。また実施2年目となる職員マナーチェックを継続し、評価内容を各ユニットで決め、評価方法を変えたことにより、職員自身取り組みやすい内容になってきた。常に入居者を敬う言動を自然に行えるよう今後も継続を考えている。各ユニット独自の取り組みやケアプランに基づいた個別ケアを行うとともに、ほぼ毎月『虹の会』及び『喫茶』を行い、ユニット間の交流ふれあいの機会をもつことができた。食事面においても、一昨年末より再開した『ユニット内調理』も継続している。全ユニットでの実施ではないが、調理ユニットを交代するなど『温かいものを温かいうちに食べていただけるよう』に進めている。

(1) 行事

月/日	行 事 名	参加者数	月/日	行 事 名	参加者数
4/3	虹の会（花見）	8	10/17	西3外出	3
4/10	喫茶	30	10/23	喫茶	30
4/13	西2外出（鳴滝公園）	5	10/31	虹の会（喫茶店）	3
4/22	岩屋小チューリップふれあい	20	11/9	喫茶	30
4/26	但東町チューリップ見学	2	11/14	ふれあい（野田川歌唱研究会）	25
5/2	西2チューリップ見学	5	11/17	文化祭（～24日まで）	100
5/8	喫茶	30	11/17	白帆会（南京玉すだれ）	25
5/22	喫茶	30	11/20	虹の会（フラワーアレンジメント）	20
5/25	岩屋小運動会	4	11/21	岩屋小チューリップふれあい	20
6/12	喫茶	30	11/23	喫茶（お茶会）	30
6/16	故入居者偲ぶ会	10	11/27	喫茶	30
6/19	ふれあい（野田川歌唱研究会）	25	12/11	喫茶	30
6/26	喫茶	30	12/12	ふれあい（辻阪先生ピアノ）	25
6/29	虹の会（卓球バレー大会）	13	12/21	東1クリスマス会	10
7/1	七夕週間（6日まで）			東2クリスマス会	16
7/10	虹の会（そうめん流し）	20	12/24	西2クリスマス会	12
7/24	喫茶	30		西3クリスマス会	12
8/8	東1ドライブ	2	12/27	餅つき大会	40
8/10	夏祭り	45	1/17	喫茶	30
8/13	虹の会（お盆供養）	15	1/22	ふれあい（野田川歌唱研究会）	25
8/14	喫茶	30	2/3	虹の会（豆まき）	30
8/28	喫茶	30	2/12	喫茶	30
8/30	ふれあい（グリーンエコー）	30	2/17	虹の会（ビンゴゲーム）	15
9/11	喫茶	30	2/26	喫茶	30
9/18	敬老祝賀式	50	3/2	ふれあい（グリーンエコー）	30
9/24	喫茶	30	3/3	虹の会（雛めぐり）	3
10/2	西3・西2ドライブ	5	3/12	喫茶	30
10/4	与謝野町敬老会	7	3/18	お彼岸供養の会	15
10/6	福祉の里まつり	50	3/20	虹の会（卓球バレー大会）	6
10/16	運動会	45	3/26	喫茶	30

(2) クラブ活動

月	習字	10月	5
4月	5	11月	なし
5月	なし	12月	5

6月	5	1月	5
7月	5	2月	5
8月	5	3月	5
9月	5	合計	50

### (3) ボランティア受入れ状況

例年お世話になっているボランティア以外に、今年度は高校生ボランティア受け入れがあった。学校全体でボランティア活動に力を入れておられ、『福祉の里まつり』という大きな行事でも協力していただき無事終わることができた。福祉への学びや職業への理解にもつながることを期待したい。また、入居者の生活に潤いと楽しみの機会も多くあった。

受入月	グループ名	参加者数	内 容	受入月	グループ名	参加者数	内 容
4月	天理教	8	車椅子掃除	9月	個人ボラ	2	習字
	個人ボラ	2	習字		天理教ボラ	10	車椅子掃除
	個人ボラ	1	雑務		個人ボラ	1	雑務
5月	個人ボラ (4日間)	1	草刈	10月	個人ボラ	2	習字
	個人ボラ	1	雑務		天理教	10	福祉の里まつり
6月	個人ボラ	2	習字		加悦・宮津・暁星高校生徒	6	福祉の里まつり
	野田川歌唱研究会	10	歌		高校生	3	福祉の里まつり
	個人ボラ	1	雑務	他団体	5	福祉の里まつり	
7月	個人ボラ	2	習字	11月	野田川歌唱研究会	10	歌
	つつじ会	7	清掃		天理教ボラ	10	車椅子掃除
	天理教	10	車椅子掃除		コスモス会	5	掃除
	個人ボラ	1	草刈		錦会	2	掃除
	加悦谷高校生徒	3	神宮寺手伝い	12月	天理教	10	車椅子掃除
	個人ボラ	1	雑務		個人ボラ	2	習字
8月	個人ボラ	2	習字		個人ボラ	2	ピアノ・歌
	天理教	10	夏祭り	個人・錦会・つつじ会・加悦高校生徒	10	もちつき	
	中学生	2	夏祭り	1月	個人ボラ	2	習字
	個人ボラ	3	着付け		野田川歌唱研究会	10	歌
	グリーンエコー・宮津高校生徒	5	歌・劇	2月	個人ボラ	2	習字
	個人ボラ	1	雑務		グリーンエコー	4	歌・劇
	加悦谷高校生徒	1	囲碁	3月	宮津高校生徒	1	歌・劇
			個人ボラ		2	習字	

### 6 体験学習・研修受け入れ

体験学習及び研修・実習受け入れで、高齢者介護への理解を求める場となり、また職員自身の知識及び技術の向上の機会ともなった。更に多くの方が来設していただけるような機会を増やしていきたい。

月	内 容	期間(日数)	実人数
4～8月	京都府福祉介護人材作り派遣事業	153	1
7～8月	久美浜高等学校介護実習 (HH)	11	2
8月	暁星高等学校初任者研修施設実習	6	3
	福祉職場インターンシップ	5	1
9月	暁星高等学校初任者研修施設実習	2	1
	江陽中学校福祉体験学習	4	38
10月	愛媛県味酒野ていれぎ荘職員研修	11	8
	加悦中学校福祉体験学習	1	7
11月	京都府新規採用職員後期研修 社会福祉施設体験実習	1	2

	福祉職場人材交流（夢織りの郷職員）	2	2
	京都府ユニットリーダー研修	20	8
11～3月	京都府福祉介護人材作り派遣事業	134	1
12月	石川小学校6年生 総合的な学習の時間福祉施設訪問	1	9
	福祉即戦力人材養成科 施設実習	5	3

## 7 職員の研修参加

### （1）内部研修

#### ①新人職員研修

採用1年未満の職員を対象に、法人理念、施設のコンセプトやコンプライアンスルールを初め、リスク管理や感染症対策など組織人として求められる知識や姿勢について2日間研修を行った。

#### ②各種勉強会

各委員会が主催となり、テーマを決めて勉強会を行った。基本的な知識や実技を学び合うことで、日々のケアにつなげることを目的としている。

月	内 容	講 師	実人数	日 数
4月	コンプライアンス研修会①②	施設長	39	2
	リハビリ勉強会（基本的介護技術Ⅰ）	神内PT	7	1
	リハビリ勉強会（基本的介護技術Ⅱ）	神内PT	10	1
5月	コンプライアンス研修会③	施設長	16	1
	普通救命講習会①②	宮津与謝消防組合	14	2
6月	普通救命講習会③	宮津与謝消防組合	14	1
	第1回感染症勉強会①②	中村清康氏	45	2
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	4	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	11	1
7月	第1回リスクマネジメント勉強会①②	リスクマネジメント委員	46	2
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	4	1
	リハビリ勉強会（シーティング）	神内PT	9	1
8月	第1回ターミナル勉強会①②	ターミナル委員	39	2
	リハビリ勉強会（マットレスのデモ及びポジショニング、ケース検討）	神内PT・綴ケアネット	12	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病①）	神内PT	15	1
9月	看護職員勉強会	看護職員	5	1
	排泄勉強会①②	綴リブドウコーポレーション	23	2
	リハビリ勉強会（基礎介護技術Ⅱ実践編）	神内PT	4	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病②）	神内PT	8	1
10月	第2回感染症勉強会①②	感染症委員	40	2
	TV会議システムを活用した認知症セミナー「認知症スクリーニング検査知識編」	加藤佑佳氏	1	1
	TV会議システムを活用した認知症セミナー「認知症スクリーニング検査実践編」	加藤佑佳氏	1	1
	リハビリ勉強会（腰痛予防勉強会）	神内PT	8	1
11月	第2回ターミナル勉強会	伊藤邦彦氏・伊藤もと子氏	18	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）①	西邑章氏	26	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	11	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会①）	神内PT	23	1
12月	ユニットin北京都 全体研修会	笹原留似子氏・太田宣承氏	4	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）②	西邑章氏	21	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会②）	神内PT	15	1
1日	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	6	1

1月	リハビリ勉強会（レボの構造・調整）	神内PT	6	1
2月	ユニットin北京都 全体研修会	武田和典氏	5	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	5	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	7	1
3月	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	6	1
	リハビリ勉強会（体圧計・マットレス・ポジショニング）	神内PT	4	1

（2）派遣研修

今年度もユニットIN北京都では、部門ごと（介護・看護・ケアマネ・調理）に定期会議をもち、施設間で情報交換し、課題への取り組みが進められた。また、喀痰吸引等京都府研修（第2号）に参加し、2名の職員が研修を修了した。

研 修 名	主 催	実人数	日 数
介護保険サービス事業者集団指導	京都府	2	1
障害福祉サービス事業者集団指導	京都府	1	1
コーチング入門研修	京都府社会福祉協議会	1	1
民間社会福祉施設施設長研修会	京都府	1	1
喀痰吸引等京都府指導者養成研修修了者「指導看護師フォローアップ研修」	京都府看護協会	1	1
ストーマケア長期療養在宅での問題点	(株)増田医科器械	1	1
甲種防火管理新規講習	宮津与謝消防組合	1	2
府老協 丹後ブロック施設長会	府老協	1	1
近畿老人福祉施設研究協議会滋賀大会	近老協	1	2
京都府介護福祉人材づくり派遣事業に係る研修	京都府介護地域福祉課	1	1
インターンシップ受入れ事前研修	京都府福祉人材サポートセンター	1	1
インターンシップ意見交換会	京都府福祉人材サポートセンター	1	1
ユニットリーダー研修	京都府老人福祉施設協議会	1	9
喀痰吸引研修に係る指導看護師オリエンテーション	京都府看護協会	1	1
安全運転管理者講習	京都府公安委員会	1	1
介護福祉士実習指導者講習会	社団法人 日本介護福祉士会	1	4
食と手当と看取り研修会	食と手当と看取りの会実行委員会	4	2
施設従事者による高齢者虐待防止研修	ユニットin北京都	1	1
年末調整説明会	宮津税務署	1	1
居住系研修のプレゼン研修	ユニットin北京都	2	1
排泄に関する援助技術の向上を図るための研修会	社団法人 日本介護福祉士会	1	1
認知症介護初任者研修	府老協	1	1
福祉認証集合コンサルティング	(株)パソナ(京都府福祉人材サポートセンター)	1	1
派遣労働者の指導に関わるリーダー研修	マンパワーグループ	1	1
福祉人材づくり派遣事業に係る事業所研修	マンパワーグループ	1	1
介護現場におけるリスクマネジメントの視点	京都福祉介護用品協会	1	1
コーチング研修	京都府介護地域福祉課	1	1
労働災害セミナー	府老協	1	1
身体拘束ゼロ推進委員会リーダー研修	府老協	1	1
コミュニケーション研修	京都府介護地域福祉課	1	1
高齢者入所施設と医療機関の連携に係る看護職交流会	地域包括ケア推進機構・保健所	1	1
介護職員等喀痰吸引等京都府研修（第2号）	京都府	3	35

## 8 事故状況（受診となった事案）

事故報告の総件数は1078件（前年度1406件）、ヒヤリハット394件（同338件）であった。事故の内、外傷なしで状態観察のみが945件（同845件）、何らかの外傷はあるが、処置不要または施設での簡単な処置のみが517件（同561件）、受診が10件（同8件）であった。

受診の内容は、骨折が3件、創傷・打撲が6件、外傷性頭部疾患が1件であった。骨折のうち2件は入院・手術となり、外傷性頭部疾患の方も入院となった。いずれにしても事故の原因及び今後の防止策を検討し、ご本人及びご家族様へ説明を行い、誠心誠意事故後の対応にあたった。

前年度より事故総件数は減っている。繰り返し起こる原因不明の内出血や表皮剥離などは、全体の30%弱発生しており、防止策の検討を重ねるとともに、皮膚状態の観察力を高めている。しかし、毎年無くさなければならぬ薬関係の事故（誤配・誤薬・薬飲み忘れ）が全体の15%発生しており、事故防止、撲滅に向けて更に意識を高める必要がある。

その他の事故として、『食事に関する事故』が発生した。食事提供のミスであるが、職員間の報告・連絡・相談という基本的なミスが原因で、入居者に多大な迷惑をかけてしまった。幸い大事に至っていないが、安心安全な満足できる食事提供をすることを今後も徹底していきたい。

また、医療的ケア研修開始に伴い、医療的ケアに関する事故の報告も行っている。総件数が37件、ヒヤリハットが13件であり、前年度多かった『吸引圧異常事故』は減ったが、胃瘻部からの注入漏れや、注入後ボタンが開いていたことでの注入食漏れ、また、吸引チューブの消毒が適切でなかったことなど、正常な状態でないことが多くあった。その他、前年度になかった消毒液不足が数件続き、原因を調べ、職員間で手技の再確認を行った。

項目	特養	ケア	ショート	デイ	小規模	合計
転倒及び転落	2		3	1		6
介助中の事故				1	1	2
誤嚥（誤飲）						0
異食						0
薬の誤配						0
入所者同士のトラブル						0
無断外出						0
自動車事故						0
その他	1		1			2
合計	3	0	4	2	1	10



## 10 苦情・要望アンケート

### 平成25年度苦情・要望アンケートの状況

回収率については、前回よりも10%ほど上昇しており、特に在宅サービスが多くなっている。要望については、サービス内容に関する要望が多く、サービスの質の向上を目指している中で、このような要望をいただくことは、さらなるレベルアップを考えていく必要が求められているといえる。今後サービス事業所が増えていく中で、ご利用者が事業所を選べるようになることで、事業所としては個々のご利用者のニーズをしっかりと把握したサービスの提供が求められる。

### 配布数と回収率

	配布数	回答数	回収率	昨年度回収率
特 養	50	30	60.0%	74%
在宅サービス	180	88	48.9%	42%
合 計	230	118	51.3%	

### 苦情解決の仕組みをご存知ですか

	はい	いいえ	詳しくは知らない	無回答	合計
特 養	16	7	5	2	30
在宅サービス	26	26	23	13	88
合 計	42	33	28	15	118
回答構成率	35.6%	28.0%	23.7%	12.7%	
昨年度構成率	53.8%	36.2%		10.0%	

### サービスごとの満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	合計	合計
特 養	27	3	0	0	0	30	60
在宅サービス	68	6	1	1	12	88	176
合 計	95	9	1	1	12	118	236
回答構成率	80.5%	7.6%	0.8%	0.8%	10.2%		
昨年度構成率	78.5%	16.2%	0.8%	0.0%	4.6%		

## 平成25年度 ケアハウス虹ヶ丘 事業報告書

### 1 総括

平成24年度に引き続き、平成25年度も入れ替わりが多くあった（退居4名、入居5名）。これは、平成25年3月に町内に60名定員の特養が開設されたことで、周辺地域内の多くの緊急性・必要性の高いご利用者に動きがあったことが背景にあると思われる。

入居者の顔ぶれやケアハウスの雰囲気も大きく変わった。年度末にかけてはご入居者同士の間人間関係も随分よくなり、食後やおやつの後等には食堂で談笑される時間の割合が格段に増え、ようやく居心地のよい理想的なケアハウス像に近づいてきているのかと感じている。

一方で、体力の低下、認知症等の進行による認知機能低下等で、平均要介護度はこれまでで最も重度化が進み、ケアハウスでの生活が難しくなっている方もおられるが、ケアハウスでの生活は、他の介護保険施設から比べれば自由度が高いため、特養からの誘いを断られた方もおられる等、次段階の施設への移行が進みにくい現状は今もそう変わっていないと言える。

以前から比べると生活しやすいケアハウスとなったとはいっても、当事業所の行事等に各ご入居者皆が一緒に行動するということが困難な状況は変わっていない。入居者全員で何かに取り組む姿勢も必要とは考えつつ、趣味や嗜好も異なり、認知症進行にともない適応能力も異なるため、外食、買物、食事会を除いて集団行動を行なうことは今後も困難であることが予想される。個別ニーズに応じて、精神的健康を保つための外部のインフォーマルの社会資源の発掘や余暇活動の過ごし方等が、今後も大きな課題である。

また、入居申し込みが以前に比べると減少傾向にあり、周辺地域のサービス付高齢者向け住宅等、居住系サービスのニーズがそれなりに充足されてきていることを実感する。これまでは居室内を完全なプライベート空間として、介護サービスを自ら契約することで日常生活を維持していただくスタンスをとっていたが、入居者の利便性と安全性の向上を図るため、ベッドサイドケアやお薬の支援、送迎等のオプションサービスについて独自の付加価値をつけて、ケアハウスでの生活が少しでも安定して過ごしていただけるような支援の形を考えていかなければならないと感じている。

### 2 入退居状況

：人

月 別	入居者数	退居者数	退居理由	月末在籍者数	男 性	女 性
4月	0	0		13	6	7
5月	1	0		14	6	8
6月	1	1	特養入所	14	6	8
7月	0	0		14	6	8
8月	0	1	入院	13	6	7
9月	0	0		13	6	7
10月	1	0		14	7	7
11月	1	0		15	7	8
12月	0	2	養護入所 特養入所	13	6	7
1月	0	0		13	6	7
2月	0	0		13	6	7
3月	1	0		14	6	8
合 計	5	4		13.6		

### 3 入居者状況

#### (1) 年齢別構成

年 齢	男 性	女 性	合 計
60-64	0	0	0
65-69	0	0	0
70-74	0	0	0
75-79	1	1	2
80-84	2	2	4
85-89	2	5	7
90-94	0	1	1
95-99	0	0	0
合 計	5	9	14
平均年齢	81.6	85.1	83.9
最高年齢	86	90	
最低年齢	76	78	

#### (2) 出身地別状況

出身地	男 性	女 性	合 計
与謝野町	5	4	9
伊根町	0	0	0
宮津市	0	2	2
その他	0	3	3
合 計	5	9	14

### 4 身体状況

#### (1) 要介護度別

平均 1.6

介護度	男 性	女 性	合 計	構成比
認定無し	0	1	1	7%
要支援1	1	1	2	14%
要支援2	0	2	2	14%
要介護Ⅰ	1	2	3	21%
要介護Ⅱ	2	1	3	21%
要介護Ⅲ	0	2	2	14%
要介護Ⅳ	1	0	1	7%
要介護Ⅴ	0	0	0	0%
合 計	5	9	14	100%

#### (2) 在宅サービス利用状況

##### 介護サービス

利用種別	実人員	対入居者割合	備 考
訪問介護	8	57%	
訪問看護	2	14%	
短期入所	0	0%	

##### 介護予防サービス

利用種別	実人員	対入居者割合	備 考
訪問介護	2	14%	
訪問看護	1	7%	
短期入所	0	0%	

通所介護	6	42%	
通所リハ	1	7%	

通所介護	1	7%	
通所リハ	0	0%	

## 5 行事等の実施状況

### (1) 行事

月	行事名
4月	花見、庭の手入れ
5月	苗植え
6月	
7月	
8月	夏祭り
9月	敬老祝賀会
10月	福祉の里祭り
11月	文化祭
12月	餅つき、忘年会
1月	新年祝賀会
2月	節分
3月	ひな祭り

月例行事：外食、食事会、買い物、誕生会

## 6 職員の研修参加

### (1) 内部研修

月	内容	講師	実人数	日数
4月	コンプライアンス研修会①②	施設長	2	2
5月	コンプライアンス研修会③	施設長	1	1
	普通救命講習会①②	宮津与謝消防組合	2	2
	第1回感染症勉強会①②	丹後保健所 中村清康氏	3	2
7月	第1回リスクマネジメント勉強会①②	リスクマネジメント委員	3	2
8月	第1回ターミナル勉強会①②	ターミナル委員	1	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病②）	神内PT	1	1
10月	第2回感染症勉強会①②	感染症委員	2	2
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）①	西邑章氏	2	1
12月	ユニットin北京都 全体研修会	笹原留似子氏 太田宣承氏	1	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会②）	神内PT	1	1

### (2) 派遣研修

研修名	主催	実人数	日数
-----	----	-----	----

北部ブロック生活相談員研究会(養護・軽費・ケアハウス部門)	府老協	4	4
食と手当と看取り研修会	食と手当と看取りの会実行委員会	1	1

# 平成25年度 虹ヶ丘ホームヘルプステーション 事業報告書

## 1 総括

平成25年度の半ばは今までにないご利用者の減少がみられた。要支援のご利用者数については年間通してみるとそれ程大きな変動はなかった。その大半はお一人暮らしの方であるが、その中には99歳になられる方もおられる。近くにお住まいのご家族の協力のもとで生活をしておられるが、できる限り住み慣れた環境で体調の変化を皆で見守りながら過ごしていただけるよう支援を継続したい。

利用者数が減少した大きな要因である要介護のご利用者は、お一人暮らしで在宅生活が困難となり施設に入所された方に関しては、サービス量も多くデイサービス利用時もあり送迎の訪問をしていた。また終末期で毎日訪問の方がお亡くなりになられたり、サービス量が多く介護保険内では収まらず障害制度での居宅介護をご利用になられた方もあった。このような場合には他の居宅介護事業所に依頼しなくても当事業所で継続利用していただけるメリットがあるのではないかと考える。介護保険法と障害制度が混在しているご利用者には、月末集計時にご利用日数や支給限度額の確認を行い、訪問介護か居宅介護にするか調整し対応してきた。

この一年で感じた大きな点としては、キーパーソンであるご家族の理解の難しさが一つあげられる。ご利用者の生活面や体調が優先なのか、ご家族の思いが優先なのか。ご利用者優先と考えながらもご家族の支援があってこそ生活が成り立つご利用者でもあるところでどのように考えていくべきかということを考えさせられる場面が多くあったように思う。施設系サービスを利用せず在宅生活の継続を希望されるご家族など、また骨折から寝たきりになられたり、高齢から下肢筋力低下し歩行困難となられ、サービス内容が変わった方もおられた。その内容として二人派遣での洗髪、清拭などが年度末にかけて増加傾向となった。ここ数年、サービスとしてあまりなかった二人派遣のサービスが増加したため、二人で行う介助法について皆で研修を行い、援助内容を確認する必要が出てきた。

障害制度でのご利用者については、昨年度から変わりなく利用していただいているご利用者と、既述した両制度をうまく切り替えながら利用していただいた方、またご利用者への支援というよりも家屋の傷みが酷く倒壊リスクが高くなって生活の継続性が危ぶまれる方等があった。常に危険と隣り合わせで暮らしておられるところを、頻りに担当相談員には報告していたが、思うように相談が進まなかった現状があり、他事業所との関わりの難しさを感じたケースだった。

職員体制については異動や退職などで、年度末には訪問時間の調整をすること自体が難しくなり、ご利用者に大変ご迷惑をおかけした。非常勤ヘルパーの勤務状況にも負荷が生じ始めており、今後早い段階での体制の強化をしていかなければならないところである。

## 2 利用者状況

(1) 要介護度別 3月度 平均 2.4

	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	0	0	0.0%
要支援2	0	7	7	21.2%
要介護Ⅰ	2	3	5	15.2%
要介護Ⅱ	4	5	9	27.3%
要介護Ⅲ	2	3	5	15.2%
要介護Ⅳ	1	1	2	6.1%
要介護Ⅴ	1	4	5	15.2%
非該当	0	0	0	0.0%
合計	10	23	33	100.0%

(2) 障害程度区分別 3月度 平均 3.7

	男性	女性	合計	構成比
区分1	0	0	0	0.0%
区分2	0	0	0	0.0%
区分3	1	1	2	66.7%
区分4	0	0	0	0.0%
区分5	0	1	1	33.3%
区分6	0	0	0	0.0%
合計	1	2	3	100.0%

## (3) 年齢別 3月度

	男性	女性	合計
— 64	3	2	5
65—69	0	1	1
70—74	0	1	1
75—79	1	2	3
80—84	3	1	4
85—89	2	11	13
90—94	1	5	6
95—99	1	1	2
100—	0	1	1
合計	11	25	36
平均年齢	77.0	84.0	82.0
最高年齢	96	101	
最低年齢	52	49	

(4) 介護給付  
《利用延件数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体1	163	97	131	107	92	78	96	70	95	126	168	185	1408
身体1・2人	4	0	0	7	8	8	9	9	3	0	0	0	48
身体1・合計	167	97	131	114	100	86	105	79	98	126	168	185	1456
身体2	66	48	50	56	56	53	52	69	61	61	66	72	710
身体2・2人	1	4	2	0	0	0	0	0	1	0	6	6	20
身体2・合計	67	52	52	56	56	53	52	69	62	61	72	78	730
身体3	0	0	0	0	0	0	0	5	2	7	9	13	36
身体3・2人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
身体3・合計	0	0	0	0	0	0	0	5	2	7	9	14	37
身体4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	5	12
身体介護	234	149	183	170	156	139	157	153	163	196	253	282	2235
身体1生活1	37	40	29	15	15	13	11	13	5	4	4	5	191
身体1生活2	8	23	14	11	9	9	10	12	11	7	2	1	117
身体1生活3	8	9	9	9	9	8	9	9	9	8	8	9	104
身体2生活1	4	5	4	5	5	4	4	2	0	0	0	0	33
身体2生活2	5	4	4	4	4	4	4	2	0	0	0	0	31
身体生活	62	81	60	44	42	38	38	38	25	19	14	15	476
生活2	78	76	60	53	66	68	69	51	60	60	57	66	764
生活3	39	25	26	36	46	41	44	43	43	43	43	45	474
生活援助	117	101	86	89	112	109	113	94	103	103	100	111	1238
計	413	331	329	303	310	286	308	285	291	318	367	408	3949
一人派遣	408	327	327	296	302	278	299	276	287	318	361	401	3880
二人派遣	5	4	2	7	8	8	9	9	4	0	6	7	69
計	413	331	329	303	310	286	308	285	291	318	367	408	3949
訪問時間	369:55	329:40	322:10	315:50	319:45	301:45	328:35	312:30	307:20	340:10	379:15	420:34	4047:29
訪問日数	342	273	291	292	283	259	274	263	263	266	286	303	3395
訪問回数	455	376	384	366	365	342	377	343	351	412	469	519	4759
初回訪問加算	2	2	1	3	1	1	0	2	1	1	1	1	16
緊急時加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
訪問介護 処遇改善加算Ⅰ	32	27	24	25	25	25	25	25	25	24	24	24	305

### 《利用実人数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年間実利用者数
身体介護	21	17	18	15	17	12	13	14	15	15	16	16	189	27
生活援助	14	13	11	13	13	13	14	13	13	13	12	13	155	22
身体生活	8	9	9	8	7	7	6	6	6	4	4	3	344	14
計	43	39	38	36	37	32	33	33	34	32	32	32	688	42
一人派遣	32	27	24	25	25	25	25	25	25	24	24	24	305	42
二人派遣	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	2	3	14	5
計	33	28	25	26	26	26	26	26	26	24	26	27	319	47
実利用人数	32	27	24	25	25	25	25	25	25	24	24	24	305	42

### (5) 予防給付

#### 《利用延件数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防訪問介護Ⅰ	25	28	24	25	26	23	34	24	27	19	20	16	291
予防訪問介護Ⅱ	17	16	31	36	29	33	33	34	34	33	31	31	358
合計訪問時間	42:00	44:00	55:20	60:20	55:00	56:00	67:00	58:00	60:55	52:00	51:00	47:00	648:35
合計件数	42	44	55	61	55	56	67	58	61	52	51	47	649

#### 《利用実人数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年間実利用者数
予防訪問介護Ⅰ	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	5	4	63	6
予防訪問介護Ⅱ	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	44	4
一人派遣	7	7	9	9	9	9	10	10	10	10	9	8	107	10
合計件数	7	7	9	9	9	9	10	10	10	10	9	8	107	10
初回加算	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	3

### (6) 自立支援法

#### 《利用延件数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活援助中心型	23	21	21	24	21	19	23	22	22	20	19	21	256
身体介護中心型	36	81	82	76	53	54	67	72	70	47	32	32	702
合計訪問時間	20:30	19:30	19:30	22:00	19:30	18:00	20:30	20:30	20:30	19:00	21:30	23:00	244:00
合計件数	59	102	103	76	74	73	90	94	92	67	51	53	958

#### 《利用実人数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年間実利用者数
生活援助中心型	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	34	3
身体介護中心型	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	21	2
一人派遣	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	3	55	5
合計人数	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	3	55	5



### 3 職員の研修参加

#### (1) 内部研修

月	内 容	講 師	実人数	日数
5月	『調理』 家にある調味料を活用する	ヘルパー	5	1
6月	『技術』 記録の残し方	ヘルパー	7	1
7月	『緊急時対応』 熱中症と緊急時の対応について	ヘルパー	7	1
9月	『技術』 ヘルパーの基本援助について	ヘルパー	7	1
10月	『緊急時対応』 事例検討	ヘルパー	6	1
11月	『接遇』 ヘルパーの接遇・マナーについて	ヘルパー	6	1
12月	『調理』 旬の野菜を使って調理	ヘルパー	6	1
1月	『技術』 ポジショニング	ヘルパー	6	1
	『認知症』 認知症介護実践者研修学習			
2月	『調理』 白菜を使った料理	ヘルパー	6	1

#### (2) 派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日数
ホームヘルパー交流会	与謝野町包括支援センター	2	3
感染症予防対策基礎研修会	丹後保健所	1	1
ヘルパーの接遇マナーについて	京都府HH連絡協議会	1	1
与謝野町障害福祉分野人事交流	与謝野町地域自立支援協議会	5	9
介護福祉士実習指導者講習会	社団法人 日本介護福祉士会	1	4
難病患者等ヘルパー養成研修	京都府社会福祉協議会	1	1
認知症介護初任者研修	府老協	2	1
認知症介護実践者研修	府老協	1	4

# 平成25年度 虹ヶ丘デイサービスセンター 事業報告書

## 1 総括

平成25年度は、前年度の介護報酬改定から一年経過し、虹ヶ丘デイサービスでは要支援の方には複数サービス（運動器・口腔）を、要介護の方にはごく少数ではあるが口腔・個別機能訓練Ⅱの実施を続けている。

稼働率は、22.0名/日と、前年度の20.9名/日に比べて1.1名/日と、稼働率は増加している。要支援のご利用者は、前年度3月に19名だった利用者数が今年度3月には27名に増加しており、ここが稼働率の増加に繋がっていると考えられる。介護報酬改正に合わせて要支援者に複数サービスを実施するようになり、包括支援センターに対し認識がされてきていることや、地元の地域団体「さぼーとい輪や」との合同行事を実施したことで利用に繋がったケースも数件あり、そうした取り組みが徐々に実績として表れてきているのではないかと考えられる。一方で要介護のご利用者数が減少しており、前年度同様に、要介護2・3の中度層の利用者数は減少し続けている。また一方で、要介護5の方の実人数は減っておらず、要介護4・5の重度層の比率も大きな変動はない。前年度の予想通り、重度のご利用者は様々な理由で特養に入居しにくい中で在宅生活をされており、今後も利用は一定数はあると想定される。利用者の介護度比率が軽度と重度の二極化は続いており、しばらくこの状況は続くのではないかと考えられる。

要介護の方の実人数減少の要因の一つは、特養や老健に入居される傾向があるのと、病気で長く休まれるご利用者が特に12月～2月には多かったことがあげられる。また、同時期に虹ヶ丘支援センターの新規受入れが体制上困難だったことも関係した。現に新規受入れを少しずつ開始されると同時に、デイの新規利用に繋がったケースが数件あった。他居宅介護支援事業所も同様にデイサービスをされているところも多く、与謝野町内のデイサービスの競争が激しくなる中、総合福祉施設であることや現状のサービスの継続だけでは、虹ヶ丘デイサービスを選んでいただけない状況が訪れる可能性もあり、活動内容の充実化を具体的に図っていきたい。また、平成27年度の介護保険法改正で、予防給付の方への対応を与謝野町がどのように方針を示されるのかがまだ見えてこない中、今後の動向に迅速に対応できる準備をしておきたいと考えている。

## 2 主な取り組み

平成25年度は、前年度の介護報酬改定から1年経過しており、前年度声が多く挙がった冬期の時間短縮を望む声もなく、ご利用時間7時間10分が定着してきている。加算に関わるサービスとしては、複数サービス実施（運動器・口腔）に関して先にも述べたように定着してきている。機能訓練加算Ⅱについては限られたごく数名のご利用者に対しての実施に留まっている。いずれも看護師の確認のもと介護士が訓練を実施しているのが実情である。また口腔加算についても重度の口腔ケア・摂食ケアが必要な利用者を中心に一部実施している。口腔体操や口腔ケアの定着もできているが、なかなか計画や加算にまで繋がる利用者は少ない。要因としては、いずれも看護師やセラピストの専門性を発揮して実施やモニタリングを行うものだが、看護師の厳しい体制上更にそれらを専門的に求めることは非常に困難な状況であることが挙げられる。アセスメントやモニタリング等、定期的に的確に行うには介護士と協力して実施しても限界がある。今後の国の流れを考えると、運動器機能訓練や機能訓練は外せない内容で、一層充実化を図っていく必要があり、どのように実施していけば良いか、現状で改善を考えていくのではなく、必要に応じた人員やセラピストの配置等求めていきたい。

ご利用者により自発的に積極的に余暇活動に取り組んでいただけるようにと、25年度はレクリエーション活動に細かい担当を付け（園芸に特化・物作りに特化等）、担当毎にも年間計画を作成したうえで、多くのレクリエーションがご利用者に提示でき活動して頂けるようにと取り組みを行った。また、活動に対して目で見て実感していただけるようにと、ポイントが貯まるポイントカード制を導入した。ご利用者へのポイントカード浸透も徐々に深ま

ッ、ポイントカードを貯め、他の力とは異なる場所にポイントに出かけた商品が買えるなど、特別な演出を新たに試みたが、一年で評価するのは難しく、来年度も何らかの形でポイント制は続けてから評価をしたいと考えている。ご利用者が目標や目的を持って活動に参加できるように、来年度は魅力ある運動やレクリエーションの充実化を図り、楽しみややりがいを実感して頂けるように取り組んでいきたい。

地域活動としては、例年同様かかしコンテストに参加したりウイルや岩屋区の文化祭に参加し、日頃の活動の様子のアピールを行った。また、さぼーとい輪やさんとの合同夏祭りを実施し、10数名の岩屋区の高齢者に参加して頂き交流を楽しんで頂けた。来年度も積極的にさぼーとい輪やを始めとして、地域住民の方との直接的な交流やふれあいができるように取り組んでいきたい。その活動の中で地域にどのような支援が必要とされているのか・役立てることがないかを見出していきたくと考えている。

### 3 サービス実績の状況

	開所 日数	実人数	介護	予防	障害	延利 用人数	介護	予防	障害	1日 平均	介護	予防	障害
4月	30	101	80	20	1	647	519	126	2	21.6	17.3	4.2	0.1
5月	31	105	84	20	1	709	561	147	1	22.9	18.1	4.7	0.1
6月	30	104	81	22	1	673	525	145	3	22.4	17.5	4.8	0.1
7月	31	103	80	22	1	727	562	162	3	23.4	18.1	5.2	0.1
8月	31	103	80	23	0	685	520	165	0	22.1	16.8	5.3	0.0
9月	30	99	76	23	0	665	510	155	0	22.2	17.0	5.2	0.0
10月	31	99	74	25	0	728	550	178	0	23.4	17.7	5.7	0.0
11月	30	98	73	25	0	685	510	175	0	22.8	17.0	5.8	0.0
12月	31	94	69	25	0	660	485	175	0	21.2	15.6	5.6	0.0
1月	31	94	68	26	0	622	460	162	0	20.0	14.8	5.2	0.0
2月	28	94	67	27	0	583	424	159	0	20.8	15.1	5.7	0.0
3月	31	96	69	27	0	668	487	181	0	21.5	15.7	5.8	0.0
合計	365	1,190	901	285	4	8,052	6,113	1,930	9	22.0	16.7	5.3	0.0

### 4 サービス別利用実績

	機能 訓練	入浴	介護	予防	障害	食事	介護	予防	障害	時間 延長	介護	予防	障害
4月	35	611	488	121	2	631	503	126	2	0	0	0	0
5月	37	664	523	140	1	679	536	142	1	0	0	0	0
6月	33	625	487	135	3	655	507	145	3	0	0	0	0
7月	35	671	515	153	3	711	546	162	3	0	0	0	0
8月	32	635	479	156	0	672	507	165	0	0	0	0	0
9月	34	604	457	147	0	651	496	155	0	0	0	0	0
10月	31	664	500	164	0	714	536	178	0	0	0	0	0
11月	32	625	469	156	0	663	494	169	0	0	0	0	0

12月	33	602	444	158	0	647	472	175	0	0	0	0	0
1月	33	566	419	147	0	610	448	162	0	0	0	0	0
2月	32	522	379	143	0	574	415	159	0	0	0	0	0
3月	33	594	431	163	0	650	472	178	0	0	0	0	0
合計	400	7,383	5,591	1,783	9	7,857	5,932	1,916	9	0	0	0	0

## 5 介護度別利用状況

(1) 介護度別 平均 1.9

項目	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	4	4	4.2%
要支援2	2	21	23	24.0%
要介護Ⅰ	9	17	26	27.1%
要介護Ⅱ	3	14	17	17.7%
要介護Ⅲ	4	9	13	13.5%
要介護Ⅳ	0	3	3	3.1%
要介護Ⅴ	3	7	10	10.4%
合計	21	75	96	100.0%

(2) 障害程度区分別 平均

項目	男性	女性	合計	構成比
区分1	0	0	0	0.0%
区分2	0	0	0	0.0%
区分3	0	0	0	0.0%
区分4	0	0	0	0.0%
区分5	0	0	0	0.0%
区分6	0	0	0	0.0%
合計	0	0	0	0.0%

## 6 年齢構成別利用状況

(1) 全体（登録者）

	男性	女性	合計
－60	1	0	1
61－64	0	1	1
65－69	2	1	3
70－74	0	3	3
75－79	2	7	9
80－84	3	9	12
85－89	6	18	24
90－94	7	24	31
95－99	0	10	10
100－	0	2	2
合計	21	75	96
平均年齢	83.4	87.6	86.7
最高年齢	94	101	
最低年齢	55	61	

(2) 介護給付対象者（登録者）

	男性	女性	合計
－60	1	0	1
61－64	0	1	1
65－69	2	1	3
70－74	0	3	3
75－79	1	5	6
80－84	3	5	8
85－89	6	12	18
90－94	6	15	21
95－99	0	6	6
100－	0	2	2
合計	19	50	69
平均年齢	83.3	86.8	88.7
最高年齢	94	101	
最低年齢	55	61	

(3) 予防給付対象者（登録者）

	男性	女性	合計
－60	0	0	0
61－64	0	0	0

(4) 総合支援法対象者（登録者）

	男性	女性	合計
－60	0	0	0
61－64	0	0	0

65-69	0	0	0
70-74	0	0	0
75-79	1	2	3
80-84	0	4	4
85-89	0	6	6
90-94	1	9	10
95-99	0	4	4
100-	0	0	0
合計	2	25	27
平均年齢	83.5	89.2	86.4
最高年齢	91	99	
最低年齢	76	77	

65-69	0	0	0
70-74	0	0	0
75-79	0	0	0
80-84	0	0	0
85-89	0	0	0
90-94	0	0	0
95-99	0	0	0
100-	0	0	0
合計	0	0	0
平均年齢	0.0	0.0	0.0
最高年齢	0	0	
最低年齢	0	0	

## 7 高齢者介護者教室

月 日	内 容	参加者数	会 場
3月25日	家族交流会（タオル体操・介護についての座談会）	5名	虹ヶ丘

## 8 月次行事

月	行 事 名
4月	花見（鳴滝親水公園・板列神社・雲岩公園・大宮 他）・チューリップ祭り
5月	芝桜花見（福知山）・藤花見（和田山）・絵合わせ作成・園芸
6月	ドライブ（岩滝・日置方面他）・ポイントカード制開始・そば打ち・昼食味噌汁作り
7月	ドライブ（府中方面他）・うどん打ち・園芸・梅ジュース・漬物作成
8月	夏祭り週間・茶ぽーとい輪やとの合同夏祭り・かかしコンテスト出展・健康トリム
9月	ドライブ（加悦方面他・）運動会見学・脳トレーニング
10月	遠足（伊根湾めぐり）・ドライブ（大江山・大宮方面他）・運動会週間・文化祭作品制作
11月	デイ文化祭・文化祭出展（ウイル・岩屋区）ポイントカード還元外出（由良みかん狩り・綾部安国寺）・紅葉見学
12月	クリスマス週間・年始壁画作成・ビーズアクセサリー作り
1月	鍋・初詣（後藤神社）・テーブルゲーム作成・脳トレーニング
2月	一宮神社参拝・貼り絵・梅花ストラップ作り
3月	家族交流会・ドライブ（岩滝・鳴滝方面）・おはぎ作り・ばら寿司作り・園芸

## 9 職員の研修参加

### （1）内部研修

月	内 容	講 師	実人数	日数
4月	コンプライアンス研修会①②	施設長	7	2
	リハビリ勉強会（基本的介護技術Ⅰ）	神内PT	1	1
	リハビリ勉強会（基本的介護技術Ⅱ）	神内PT	1	1
	H25年度のデイサービスをどのように盛り立てていくか	デイサービス	13	1
5月	コンプライアンス研修会③	施設長	5	1
	普通救命講習会①②	宮津与謝消防組合	4	2
6月	普通救命講習会③	宮津与謝消防組合	1	1
	第1回感染症勉強会①②	丹後保健所 中村清康氏	13	2
7月	第1回リスクマネジメント勉強会①②	リスクマネジメント委員	16	2
	リハビリ勉強会（シーティング）	神内PT	4	1
	介護職員のための基本的医療知識勉強会①②	在宅課長・看護主任	1	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病①）	神内PT	4	1

	運転・車輛事故実習	デイサービス	15	1
9月	看護職員勉強会	看護職員	2	1
	排泄勉強会①②	㈱リブドゥコーポレーション	1	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病②）	神内PT	2	1
	看護知識の学習	デイサービス	13	1
10月	第2回感染症勉強会①②	感染症委員	10	2
	TV会議システムを活用した認知症セミナー	加藤佑佳氏	2	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	3	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）①	西邑章氏	2	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会①）	神内PT	8	1

月	内 容	講 師	実人数	日数
12月	ユニットin北京都 全体研修会	笹原留似子氏、太田宣承氏	1	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）②	西邑章氏	10	1
	リハビリ勉強会（運動機能訓練）	神内PT	12	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会②）	神内PT	3	1
	リハビリ勉強会（レボの構造・調整）	神内PT	1	1
2月	ユニットin北京都 全体研修会	武田和典氏	1	1

## （2）派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日数
褥瘡対策について	宮津武田病院	1	1
摂食・嚥下障害の地域連携	京都府	1	1
喀痰吸引等京都府指導者養成研修修了者「指導看護師フォローアップ研修」	京都府看護協会	1	1
感染性胃腸炎の集団発生の対応	丹後保健所	1	1
食べる機能の障害と口腔ケアについて	丹後保健所	1	1
認知症介護初任者研修	府老協	5	2
日本ケアレク研修大会	日本通所ケア研究会事務局	1	1
職場における腰痛防止対策	丹後労働基準監督署	1	1
コーチングスキルアップ中級研修	京都府社会福祉協議会	1	2
喀痰吸引研修に係る指導看護師オリエンテーション	京都府看護協会	1	1
看護職介護職ステップアップ研修	丹後地域リハビリテーション支援センター	1	1
与謝野町障害福祉分野人事交流	与謝野町地域自立支援協議会	1	1
社会福祉法人の新会計基準に係るセミナー	ひろせ税理士法人	1	1
デイサービス視察研修	府老協	1	1
日本通所ケア研究会in福山	日本通所ケア研究会	2	2
デイサービス職員のための実践型リスクマネジメント研修	府老協	1	1
現任職員の資質向上研修介護記録の書き方	京都府介護地域福祉課	1	1
コーチング研修	京都府介護地域福祉課	2	1
コミュニケーション研修	京都府介護地域福祉課	1	1

# 平成25年度 虹ヶ丘短期入所生活介護事業所 事業報告書

## 1 総括

今年度は、2つの目標をあげ取り組んできた。まず、1つ目は、ご利用者やご家族のショートステイの利用意向をしっかりと把握したうえで、居宅サービス計画に沿った個別援助計画を作成し、お一人おひとりきめの細かいサービス提供ができるようにすることである。

これについては、初回面接時に本人や家族の意向がしっかりと汲みとれるように努めることができ、利用開始後もコミュニケーションを取る中で汲み取った意向を、職員間で情報共有できるように記録に残すことが増え、必要に応じて支援方法の検討を行い意向に沿った支援ができるように努めた。

しかしアンケートの中で、家族様より“利用時の様子をもっと知りたい”、“送迎時にゆっくり話が聞けない”等、意見をいただくこともあり、更にあんしん介護ノートへ利用時の様子を詳しく記入することや送迎時にしっかりと様子を聞くことと、伝えることに努めた。

個別援助計画の作成は、3泊以上の利用者の作成の有無の確認を行い、現在は作成できているが、アセスメントが不十分なままの作成であり、とりわけ日常生活動作・意向の再確認ができてない状態だったので、新たに作成した個別援助計画書書式に順次移行していく予定である。また、個別援助計画書の必要性、作成手順に関して勉強会を実施した。

2つ目は、利用したい時に利用できるショートステイとなるように、居宅介護支援事業所など関係機関との連携、及びご利用者や家族とのつながりを一層深めるとともに、相談機能の充実や臨機応変なスケジュール調整にも努め、20床のベットを有効活用できるようにすることである。

この目標に対して、希望に応じた利用は、予約時には満床以上になった場合は利用希望の理由を確認し優先順位をつけながら調整させていただき、新規利用・緊急の希望者にも極力速やかに対応し、利用できるように努めた結果、希望に応じた利用が9割程度はできたと思われる。しかし、稼働率が低下しており、7割に満たない月もあり、送迎範囲を旧岩滝町まで拡げると共に在宅中重度者受入加算の導入により、少しでも利用者が増えるように努めるとともに、ケアの質が改善できるように丁寧な対応、ケアの提供、健口体操、レクレーションの実施に努め、施設内外の研修への参加に努めた。ショート新聞は3回発行することができ、ショートステイの状況を報告できたと思うので今後も継続していきたい。

## 2 利用状況

### (1) 町別利用状況

月	与謝野町	伊根町	宮津市	その他	合計	1日平均
4月	409	0	0	0	409	13.6
5月	448	0	0	0	448	14.5
6月	339	0	0	0	339	11.3
7月	396	0	0	0	396	12.8
8月	507	0	0	0	507	16.4
9月	506	0	0	0	506	16.9
10月	450	0	0	0	450	14.5
11月	455	0	5	0	460	15.3
12月	438	0	0	0	438	14.1
1月	458	0	0	0	458	14.8
2月	437	0	5	0	442	15.8
3月	451	0	0	0	451	14.5

合計	5,294	0	10	0	5,304	14.5
----	-------	---	----	---	-------	------

(2) 実人数・受入状況他

月	実人数	介護	予防	障害	1日当り 利用開始 人数	1人当り 平均利用 日数
4月	73	70	2	1	4.4	5.6
5月	82	78	3	1	4.6	5.5
6月	66	61	4	1	3.6	5.1
7月	67	65	1	1	4.0	5.9
8月	77	73	3	1	4.5	6.6
9月	78	76	2	0	4.2	6.5
10月	75	71	4	0	4.2	6.0
11月	73	70	3	0	4.5	6.3
12月	70	65	3	2	3.7	6.3
1月	68	63	3	2	3.8	6.7
2月	74	68	4	2	4.4	5.9
3月	73	67	4	2	3.8	6.2
平均	73.0	68.9	3.0	1.1	4.1	6.1

(3) 年齢別状況 3月度

年齢	男性	女性	合計
-64	1	1	2
65-69	2	1	3
70-74	2	0	2
75-79	1	5	6
80-84	3	3	6
85-89	4	17	21
90-94	3	20	23
95-99	0	7	7
100-	0	3	3
合計	16	57	73
平均年齢	81	89	87
最高年齢	94	102	
最低年齢	57	56	

(4) 出身地別状況 3月度

市町名	男性	女性	合計
与謝野町	16	57	73
伊根町	0	0	0
宮津市	0	0	0
その他	0	0	0
合計	16	57	73

(5) 要介護度別状況

介護・予防サービス 3月度 平均 2.9

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	0	0	0%
要支援2	0	4	4	5.6%
要介護Ⅰ	2	12	14	19.7%
要介護Ⅱ	1	10	11	15.5%
要介護Ⅲ	6	13	19	26.8%
要介護Ⅳ	1	7	8	11.3%
要介護Ⅴ	5	10	15	21.1%

障害程度区分 3月度 平均 4.0

	男性	女性	合計	構成比
区分1	0	0	0	0.0%
区分2	0	0	0	0.0%
区分3	1	0	1	50.0%
区分4	0	0	0	0.0%
区分5	0	1	1	50.0%
区分6	0	0	0	0.0%
合計	1	1	2	100.0%



合計	15	56	71	100.0%
----	----	----	----	--------

### 3 職員の研修参加

#### (1) 内部研修

月	内 容	講 師	実人数	日 数
4月	コンプライアンス研修会①②	施設長	9	2
	リハビリ勉強会（基本的介護技術Ⅱ）	神内PT	1	1
5月	コンプライアンス研修会③	施設長	4	1
	普通救命講習会①②	宮津与謝消防組合	5	2
	医療的知識について	ショートステイ	10	1
6月	普通救命講習会③	宮津与謝消防組合	1	1
	第1回感染症勉強会①②	丹後保健所 中村清康氏	10	2
7月	第1回リスクマネジメント勉強会①②	リスクマネジメント委員	10	2
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	1	1
	リハビリ勉強会（シーティング）	神内PT	3	1
	介護職員のための基本的医療知識勉強会①②	在宅課長・看護主任	8	1
	リハビリ勉強会（マットレスのデモ及び宙ジョーニング、ケース検討）	神内PT・(株)ケアネット	2	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病①）	神内PT	5	1
9月	看護職員勉強会	看護職員	1	1
	排泄勉強会①②	(株)リブドゥコーポレーション	6	2
	リハビリ勉強会（基礎介護技術Ⅱ実践編）	神内PT	2	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病②）	神内PT	1	1
	口腔ケアについて	ショートステイ	10	1
10月	第2回感染症勉強会①②	感染症委員	10	2
	TV会議システムを活用した認知症セミナー	加藤佑佳氏	1	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	8	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）①	西邑章氏	4	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会①）	神内PT	6	1
11月	個別援助計画の意義と作成の仕方	ショートステイ	11	1
12月	ユニットin北京都 全体研修会	笹原留似子氏・太田宣承氏	2	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）②	西邑章氏	6	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会②）	神内PT	6	1
1月	リハビリ勉強会（レボの構造・調整）	神内PT	4	1
2月	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	1	1
3月	リハビリ勉強会（体圧計・マットレス・ポジショニング）	神内PT	2	1

#### (2) 派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日 数
摂食・嚥下障害の地域連携	京都府	1	1
食べる機能の障害と口腔ケアについて	丹後保健所	1	1
認知症介護初任者研修	府老協	2	2
近畿老人福祉施設研究協議会滋賀大会	近老協	1	2
コーチングスキルアップ中級研修	京都府社会福祉協議会	1	2
介護保険施設セミナー	府老協	1	1
年末調整説明会	宮津税務署	1	1
現任職員の資質向上研修介護記録の書き方	京都府介護地域福祉課	1	1
コーチング研修	京都府介護地域福祉課	1	1
身体拘束ゼロ推進委員会リーダー研修	府老協	1	1

コミュニケーション研修	京都府介護地域福祉課	1	1
社会人ビジネスマナー	京都府介護地域福祉課	1	1
おむつフィッタースキルアップ研修	はいせつ総合研究所	1	2

1 総括

平成25年度は、昨年度に続き居宅介護支援事業件数が漸減し、年間延べ件数としては1,508件から1,490件となり、年度末時点の担当件数は116件となった。ピーク時からすると、大幅に担当ご利用者が少なくなったが、現状の体制の中では勤務時間内に業務が片付くことはまれな状態で、業務の合理化、スリム化をどうやって図るか、長年の懸案事項となっている。

担当ご利用者数の減少については、上半期は、24年度末に法人内の特養開設に伴う異動で加入した職員への指導期間であったことと、下半期は、年末に退職した常勤職員の後任に常勤専従の職員を据えることができず、併設他部門との兼務という職員配置となったため、事実上職員体制が弱体化したことで、相談のご希望があっても受け入れを制限せざるをえなかったことが理由として挙げられる。現在も新規相談については受け入れが困難な状況であり、できるだけ早期に、地域の方からの期待に沿えるような事業所への体制作りが求められている。

介護報酬改定による混乱も落ち着きを取り戻し、ご利用者へのマネジメントに目を向けることができた反面、各職員にとっては、引継ぎを受けたばかりでアセスメントや信頼関係の構築に時間を費やされ、かつ担当件数が増えたことなどで過ぎていった一年でもあった。

数年来の課題となっている担当医との連携は、サービス導入時やサービス担当者会議等、以前に比べて情報交換の機会は増えているように思う。ただしケースによってはまだまだ不十分と思われるので、さらに関係づくりを深め、密な連携が図れるように次年度も引き続き意識していきたい。

また、専門職のみによる支援の限界を感じていることもあり、介護家族や地域住民を巻き込んだ支援策が必要とは考えているが、サポーター養成講座は前年と同程度の実施であり、家族会の取り組みについても単発な実施という状況であった。要介護高齢者を取りまく地域住民のサポート力を強化するため、介護家族への支援のみならず地域へのアウトリーチを通し、認知症や障害があっても暮らしやすい町づくりに向けて町と連携し推進していきたいと考えている。

2 居宅介護支援・介護予防支援

(1) 件数の推移

	居宅介護支援										
	件数	初回加算	医療連携加算 I	医療連携加算 II	退院退所加算	認知症加算	独居高齢者加算	小規模多機能型連携加算	運営基準減算 I	運営基準減算 II	特定事業所加算 II
4月	133	4	3	0	6	44	11	0	0	0	133
5月	133	5	2	0	5	39	11	0	0	0	133
6月	127	2	3	0	2	39	12	0	0	0	127
7月	125	4	4	3	3	39	9	0	0	0	125
8月	126	5	4	2	3	42	8	0	0	0	126
9月	124	3	4	0	3	38	7	0	0	0	124
10月	125	3	0	0	2	42	7	0	0	0	125
11月	127	3	5	1	2	45	5	0	0	0	127
12月	122	0	0	1	2	44	6	0	0	0	122
1月	118	2	2	0	1	40	7	0	0	0	118
2月	114	2	1	0	1	38	6	0	0	0	114
3月	116	6	0	1	0	37	8	0	0	0	116
合計	1490	39	28	8	30	487	97	0	0	0	1490

	介護予防支援		
	件数	初回加算	小規模多機能型連携加算
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	0	0	0

(2) 居宅介護内容別・経路別実績

相談区分	件数	実人数
介護保険認定関係	98	57
医療健康相談	2,195	153
デイサービス利用	1,414	138
ホームヘルプ利用	610	83
訪問入浴	41	8
ショートステイ利用	798	95
訪問看護利用	248	37
施設入所関係	170	51
住宅改修・福祉用具	623	116
介護保険以外のサービス	19	12
認知症に関する相談	286	55
家族介護に係る相談	153	42
他サービス利用	36	23
その他	116	57
合計	6,807	927

区分	電話	来所	訪問	文書	その他	合計
本人	397	19	1086	6	135	1643
家族	520	26	1053	18	116	1733
関係機関	385	16	662	113	101	1277
相談協力員	0	0	0	0	0	0
その他	5	0	12	0	4	21
合計	1307	61	2813	137	356	4674

### 3 在宅介護支援センター事業内容別・経路別実績

相談区分	件数	実人数
介護保険認定関係	49	25
医療健康相談	168	44
デイサービス利用	70	26
ホームヘルプ利用	45	24
訪問入浴	4	2
ショートステイ利用	25	13
訪問看護利用	19	10
施設入所関係	56	21
住宅改修・福祉用具	46	25
介護保険以外のサービス	3	2
認知症に関する相談	20	13
家族介護に係る相談	11	7
他サービス利用	7	4
虐待に関する相談	0	0
権利擁護に係る相談	0	0
その他	21	14
合計	544	230

区分	電話	来所	訪問	文書	その他	合計
本人	51	4	47	0	10	112
家族	72	6	55	0	6	139
関係機関	55	2	37	3	3	100
相談協力員	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
合計	178	12	139	3	19	351

### 4 諸会議

会議名	主催者	延べ日数
与謝野町地域ケア会議	与謝野町	1
与謝野町福祉事業所連絡会	与謝野町福祉事業所連絡会	4
与謝野町自立支援協議会地域生活活動支援部会	与謝野町	8
与謝野町地域包括支援センター運営協議会	与謝野町	2
福祉即戦力人材養成科の座学講師説明会	京都介護福祉ジョブネット	1
佛教大学社会福祉実習懇談会	佛教大学	1
福祉認証集合コンサルティング	京都府福祉人材サポートセンター	1

## 5 職員の研修参加

### (1) 内部研修

月	内 容	講 師	実人数	日数
4月	コンプライアンス研修会①②	施設長	2	2
5月	コンプライアンス研修会③	施設長	3	1
	普通救命講習会①②	宮津与謝消防組合	3	1
6月	普通救命講習会③	宮津与謝消防組合	2	1
	第1回感染症勉強会①②	丹後保健所 中村清康氏	4	2
7月	第1回リスクマネジメント勉強会①②	リスクマネジメント委員	5	2
	介護職員のための基本的医療知識勉強会①②	在宅課長・看護主任	4	1
	リハビリ勉強会（マットレスのデモ及びポジショニング、ケース検討）	神内PT・(株)ケアネット	2	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病①）	神内PT	3	1
9月	看護職員勉強会	看護職員	2	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病②）	神内PT	1	1
10月	第2回感染症勉強会①②	感染症委員	4	2
	TV会議システムを活用した認知症セミナー 「認知症スクリーニング検査知識編」	加藤佑佳氏	2	1
	TV会議システムを活用した認知症セミナー 「認知症スクリーニング検査実践編」	加藤佑佳氏	4	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	2	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）①	西邑章氏	1	1
12月	ユニットin北京都 全体研修会	笹原留似子氏・太田宣承氏	3	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）②	西邑章氏	4	1

### (2) 派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日数
介護支援専門員更新研修	京都府	2	3
事例検討会	丹後地域リハビリテーション支援センター	1	1
丹後ブロック介護支援専門員研修	京都府介護支援専門員会	1	1
難病患者支援従事者研修会	丹後保健所	1	1
社会福祉士実習指導者講習会	京都社会福祉士会	1	1
介護支援専門員実務従事者基礎研修	京都府介護支援専門員会	1	5
多職種連携による在宅療養支援研修会	京都訪問看護ステーション協議会等	1	1
地域連携と退院支援を考える研修会	丹後保健所	1	1

## 1 総括

平成25年度の新規登録利用者は全体で5名であった。利用中止者は7名となり全体の登録数としては2名の減少となっている。利用者の高齢化と重度化に伴い、入退院を繰り返されるケースや救急受診を伴うケースが多くなってきている。そのため登録中止となった理由としては入院が最も多く、また入院から他サービスへの移行に至った事例も多かった。医療的ニーズの高まりによって、従来の小規模多機能における援助では利用者の生活を支えることが難しく、特に訪問看護等の医療的サービスを利用する場合には、小規模多機能の定額料金が大きな足かせとなる事例も見られた。在宅で最後まで、その人らしく…を理念に生活を支えることを念頭においてサービスを提供しているが、先に述べた重度化・高齢化に伴う状態変化に対応しきれない現状があると感じる。

そういった中で、在宅で亡くなられた方が2名おられた。お一人についてはターミナルとして対応し、亡くなる前日まで神宮寺の通いを利用されていた。他にも在宅での看取りを考えている利用者がおられ、重度化・看取りに向けた対応を考えていかなければならないと考えている。幸いにして医療機関との連携や相談がしやすく、夜間・緊急時についても対応して頂ける関係になっている。日々の受診対応など業務的負担も大きいですが、医療機関との連携をはかりつつ対応していきたい。

当事業所の特徴として、地元である石川区の利用者が多い事が挙げられる。平成26年3月の時点で登録者17名のうち、石川区外の利用者は1名のみという状況であり、小学校区内の登録率は9割を超えている。柔軟に訪問や通いのサービスを提供するには事業所に近い登録者が望ましく、そういう意味では理想的な形となっている。しかし利用範囲が狭いということは、いざ登録者が減ったときに新しい登録者の確保が難しいという課題も挙げられる。石川区を中心としつつ、バランスよく他地域からの利用者確保もできることが今後の課題であり、他地域に対しての情報発信と連携作りの仕組みが必要である。

先にも述べた様に、在宅サービスを取り巻く環境は厳しさを増すばかりであるため、他のサービスからの利用の乗り換えや、居宅からの新規相談事例への期待は難しい。そのため地域に向けての事業所の認知度を深める取り組みと、地域における相談窓口としての拠点機能の充実、小規模多機能というサービスの強み・良さをしっかりとアピールすることが、安定した事業所運営に向けて不可欠であり、次年度に向けた大きな課題であると考えている。

### 【活動状況】

登録者数の減少が見られるものの、サービスの提供状況は大きな変化が見られなかった。特に当事業所の特徴として、通いの提供数に比べ訪問数の割合が大きいことが挙げられる。年度末の登録者数の減少を受けても、通いの平均数の減少に比べ、訪問数については大きな減少がみられていない。また、平均介護度が減少している中でも一人当たりのサービス提供回数は7回を超えている。

介護度と利用回数は必ずしもイコールにならない。ADLが自立していても、認知機能やIADLに課題やニーズがある場合や、独居・高齢世帯等の生活状況によってサービスの提供回数が変わってくる。また、自宅での生活を中心に考えるか、事業所に来てもらうことを中心に考えるかでサービス提供の方法も変わってくる。出来る限り自宅での生活を考え、その部分で訪問援助を中心としていくことは当事業所の運営方針とも合致すると考えている。訪問回数が増えることは体制的に厳しいが、利用者の生活支援のためにもこだわって援助していきたい。

職員体制が大きく変わった一年であり、援助や業務面でも改めて振り返りの必要な年であった。これまで培ってきた経験等を新しい職員へ根拠とともに説明することが必要であり、何を大切に援助を行うか考えて行く必要もあった。まだ発展途上ではあるが、利用者の思いや声を聞き、共に考えながら援助できるように職員間で共有していきたい。また職員体制が変わったことで、新しい取り組みや活動も実践できている。特にレク・行事などは以前よりも充実してきたと思う。利用者との距離が近い神宮寺ならばこそ、職員主体にならず利用者と共に行事やレクも実施していきたい。また、個別支援も今後の課題として取り組んでいきたいと考えている。内部研修についても、医療系を中心に3回実施することが出来た。毎月とまではいかないが、会議の時間をうい、必要な勉強会が実施出来るようになりつつある。必要性を勘案しながら定期的に実施したい。

25年度は利用者支援と併せ家族支援も充実したいと考えていた。家族交流会についても定期的に実施出来るよう計画していたが、実際には5月の1回のみしか開催出来なかった。準備にどうしても時間がかかるが、家族間の交流と家族同士の横のつながりが図れるよう、課題として次年度は計画的に実施していきたい。

## 【地域支援活動】

あんしん見守り事業の活動も3年目を迎え、サロン活動、訪問活動ともに軌道にのり実施出来てきている。後半については少しサロン活動が滞ったが、ほぼ計画通り実施できたと考えている。地域にも活動が浸透していると実感しており、今後も継続して活動していきたい。個別の訪問活動については、一昨年中にサービス利用に繋がった方が多く、比較的安定した方が多かったように思う。訪問実施リストも作成し、一次訪問・二次訪問のレベル化も区分が出来つつある。訪問・相談活動のシステム構築には至らなかったが、情報を一元して管理していくことで、複数職員が地域支援活動に関わることができるため、早期の実現を目指したい。

老い支度の勉強会は6月、11月の2回実施した。どちらも外部講師に依頼し実施している。地域の声として、認知症勉強会や以前に実施したフォーラムなども今後計画する必要がある。新しい活動の展開も計画しており、次年度に向け更に進化できるよう取り組みたい。

## 2 利用状況

### (1) 月次状況

	登録者数	平均介護度	1日当り通所数	1日当り訪問数	宿泊延べ数	一人当りサービス提供回数
4月	19	2.2	8.8	6.7	28	6.0
5月	22	2.2	8.4	7.9	26	6.0
6月	19	2.1	8.4	8.9	25	6.7
7月	20	2.1	8.8	9.3	27	6.5
8月	22	2.2	8.7	10.8	27	7.0
9月	21	2.3	8.5	11.7	21	7.0
10月	21	2.3	9.1	12.5	21	7.4
11月	21	2.2	8.8	11.1	21	7.2
12月	21	2.2	8.3	10.3	33	6.8
1月	20	2.1	8.2	9.9	28	6.9
2月	18	1.9	7.4	10.6	17	7.4
3月	17	1.8	7.5	9.4	23	7.2
年間平均	20.1	2.1	8.4	9.9	24.8	6.8

### (2) 登録状況

	登録者数	登録中止者数	月末時点登録者数	利用中止理由	新規利用登録
4月	19	1	18	入院	0
5月	22	3	19	特養入所、老健入所、居宅変更	1
6月	19	0	19		0
7月	20	0	20		1
8月	22	1	21	入院	2
9月	21	0	21		0
10月	21	1	20	入院	0
11月	21	1	20	入院	1
12月	21	0	20	死亡	0
1月	20	0	18	入院	0
2月	18	0	17	死亡	0
3月	17	0	17		0
合計	241	7			5



## (3) 年齢別状況 3 月度

	男性	女性	合計
－ 6 4	0	0	0
6 5－6 9	0	0	0
7 0－7 4	1	1	2
7 5－7 9	0	0	0
8 0－8 4	0	1	1
8 5－8 9	1	8	9
9 0－9 4	1	2	3
9 5－9 9	0	1	1
1 0 0－	0	1	1
合計	3	14	17
平均年齢	84.3	88.6	87.8

## (4) 介護度別状況 3 月度 1.8

	男性	女性	合計	構成比
要支援 1	0	2	2	11.8%
要支援 2	0	1	1	5.9%
要介護 I	1	4	5	29.4%
要介護 II	0	3	3	17.6%
要介護 III	1	3	4	23.5%
要介護 IV	0	0	0	0.0%
要介護 V	1	1	2	11.8%
非該当	0	0	0	0.0%
合計	3	14	17	100.0%

## 3 月次行事

月	行 事 名
4 月	お花見（桜）、加悦谷祭り、外部評価
5 月	ドライブ、お弁当づくり、家族交流会
6 月	さつき展ドライブ、畑作業、老い支度勉強会
7 月	あわしま祭り
8 月	流しソーメン、神宮寺新聞第 8 号
9 月	ドライブ、石川小認知症サポーター養成講座
	石川小 3 年生交流会、敬老週間
1 0 月	福祉の里祭り外出、ドライブ
1 1 月	石川区文化祭出展、老い支度勉強会
1 2 月	餅つき、クリスマス会、忘年会
1 月	新年祝賀、初詣、神宮寺新聞第 9 号
2 月	節分行事、蕎麦打ち
3 月	ドライブ、雛祭り、神宮寺新聞 1 0 号

#### 4 職員の研修参加

##### (1) 内部研修

月	内 容	講 師	実人数	日 数
4月	コンプライアンス研修会①②	施設長	3	2
	リハビリ勉強会（基本的介護技術Ⅰ）	神内PT	1	1
	リハビリ勉強会（基本的介護技術Ⅱ）	神内PT	1	1
5月	コンプライアンス研修会③	施設長	8	1
	普通救命講習会①②	宮津与謝消防組合	5	2
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	2	1
	リハビリ勉強会（ケース検討）	神内PT	4	1
	緊急時対応勉強会	中村NS	10	1
6月	普通救命講習会③	宮津与謝消防組合	2	1
	第1回感染症勉強会①②	中村清康氏	11	2
7月	第1回リスクマネジメント勉強会①②	リスクマネジメント委員	11	2
	介護職員のための基本的医療知識勉強会①②	在宅課長・看護主任	9	2
	リハビリ勉強会（パーキンソン病①）	神内PT	1	1
9月	看護職員勉強会	看護職員	1	1
	排泄勉強会①②	柳リブドゥコーポレーション	2	1
	リハビリ勉強会（パーキンソン病②）	神内PT	4	1
	肝炎対策勉強会	沼田NS	10	1
10月	第2回感染症勉強会①②	感染症委員	9	2
	TV会議システムを活用した認知症セミナー	加藤佑佳氏	1	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）①	西邑章氏	5	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会①）	神内PT	2	1
12月	ユニットin北京都 全体研修会	笹原留似子氏・太田宣承氏	1	1
	メンタルヘルス研修（ゲートキーパー研修）②	西邑章氏	2	1
	リハビリ勉強会（摂食・嚥下勉強会②）	神内PT	1	1
	吸引器使用に関する勉強会	沼田NS	11	1
1月	リハビリ勉強会（レボの構造・調整）	神内PT	4	1
	リハビリ勉強会（体圧計・マットレス・ポジショニング）	神内PT	1	1

##### 2) 派遣研修

研 修 名	主 催	実人数	日 数
褥瘡対策について	宮津武田病院	1	1
摂食・嚥下障害の地域連携	京都府	1	1
コーチング入門研修	京都府福祉人材研修センター	1	1
小規模多機能事業所 介護士交流会	小規模多機能型事業所連絡会	2	2
感染性胃腸炎の集団発生の対応	丹後保健所	1	1
認知症介護初任者研修	府老協	1	1
介護実習報告会	久美浜高校	1	1
介護福祉士実習指導者講習会	社団法人 日本介護福祉士会	1	4
施設従事者による高齢者虐待防止研修	ユニットin北京都	2	1
小規模多機能委員会研修	府老協	1	1
丹後保健所地域ケア推進連絡会議	丹後保健所	1	1
専門職と地域住民の協働研修	京都府社会福祉協議会	1	1
市民公開講座	一般社団法人 与謝医師会	1	1
現任職員の資質向上研修介護記録の書き方	京都府介護地域福祉課	1	1
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	京都府	1	2